

カザフスタン*

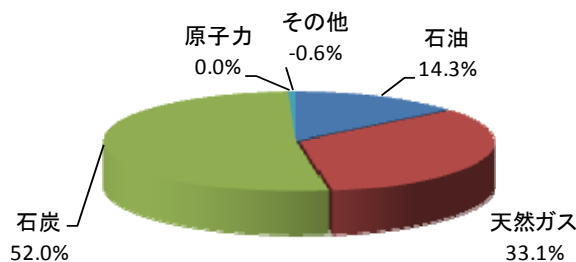
国際動向・戦略分析グループ 研究員 栗田 抄苗

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 : 52.44 百万石油換算トン
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 : 3.46 石油換算トン/人
- (3) エネルギー自給率 : 232% (2005 年)
- (4) エネルギー起源 CO2 排出量 : 154.74 二酸化炭素百万トン
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO2 排出量 : 10.22 二酸化炭素トン
- (6) エネルギー源別可採年数 : 原油 76.5 年、天然ガス 100 年以上、石炭 325 年 (2006 年末)、ウラン N.A.

一次エネルギー総供給構成 (2005 年)



(出所) IEA, 「Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005」 2007 Edition.

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- ・ エネルギー・鉱物資源省 (Ministry of Energy and Mineral Resources) は、エネルギー政策全般を担当し、エネルギー関連法の構築、エネルギー分野別の戦略立案・実行を担当する。国内市場の規制・監督官庁は Committee for the Regulation of Natural Monopolies and Protection of Competition である。また、石油・天然ガス輸送を管轄する部局として Inter-departmental Commission on Oil and Gas Pipelines がある。

(2) 基本政策

- ・ 石油・天然ガスの輸出拡大を目指し、外国投資の導入・推進に向けた環境整備、輸出用パイプラインの整備・拡充、輸出先の確保を進めてきた。しかし、2005 年 7 月の新 PS 法制定、2007 年 10 月の炭化水素鉱物資源開発法の改正などに見られるように、国家による資源管理が強化される傾向にある。
- ・ 石油生産について、2007 年 10 月にカザフスタン政府は 2010 年までに 2010 年までに 150 万~160 万 b/d、2015 年までに 240 万~260 万 b/d と生産目標を 2006 年発表よりも下方修正している。

*平成 19 年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

(3) 最近の動向

- ・ 2007 年 8 月、カザフスタン政府はカスピ海カシヤガン油田開発に関し、環境規制不履行、輸入税の不正、安全対策の不備を理由として 3 ヶ月間の開発中断を命令し、交渉が続いていたが、2008 年 1 月、開発コンソーシアム側はカザフスタン国営石油企業カズムナイガス (Kazmunaigaz) が権益シェアを 8.33% から 16.81% へと拡大することで合意した。
- ・ 2007 年 9 月、カザフスタン大統領は炭化水素鉱物資源開発法の改正案に署名した。本法律は油田開発などにおいて、同国のセキュリティや国益に脅威であると見なされる場合、政府に既存契約の変更や破棄する権限を与えるものである。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- ・ カシヤガン油田を開発する KCO コンソーシアムに国際石油開発 (INPEX) が 8.33% 出資。
- ・ 2007 年 8 月に東芝が、同年 9 月に九州電力がカザフスタン共和国の国営企業カザトムプロム社推進のウラン鉱山開発のハラサン鉱山プロジェクトへの参画を発表した。丸紅が保有する株式を東芝が 22.5%、九州電力が 2.5% ずつ取得する。同プロジェクトでは、カザトムプロムの関係会社であるキズルクム社とバイケン-U 社がハラサン鉱山 2 鉱区の新規開発を行う。同プロジェクトにおけるコンソーシアムメンバーの権益比率は、丸紅 30%、東京電力 30%、中部電力 10%、東北電力 5% となっており、がキズルクム社らの権益の一部を有する持ち株会社を保有するとともに、同鉱区で生産されるウラン精鉱のうち年 2 千トンの引取権を取得している。07 年から試験生産を開始、2014 年までに年間 5,000 トン (MTU) のフル生産に移行予定。2050 年頃までの生産を計画している。

2. 主要エネルギー指標

(1)	一次エネルギー供給量	52.44	百万石油換算トン
(2)	一人当たり一次エネルギー供給量	3.46	石油換算トン/人
(3)	GDP 当たり一次エネルギー供給量	1.75	石油換算トン/千ドル
(4)	エネルギー自給率	232	%
(5)	エネルギー起源CO ₂ 排出量	154.74	百万CO ₂ 換算トン
(6)	一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量	10.22	CO ₂ 換算トン/人
(7)	一次エネルギー供給構成	石炭	52.6 %
		石油	14.5 %
		ガス	33.5 %
		原子力	0.0 %
		その他	-0.6 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	-131	%
(9)	石油の輸入依存度	-703	%
(10)	輸入原油の中東依存度	0	%
(11)	原油輸入先	第1位	ロシア
		第2位	-
		第3位	-

出所：(1) ~ (4) および (7) ~ (9) は IEA「Energy Balances of Non-OECD Countries」2007 Edition。(5) ~ (6) は IEA「CO₂ Emissions from Fuel Combustion 1971-2005」2007 Edition。(10) ~ (11) は Blackwell「World Oil Trade: An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements」, September 2007.